



ドイツでの2週間の入院体験記



ある日の昼食。芋と大量のグリーンピース。肉をトマトソースで煮込んだものは味がきつくて、私は3口でお腹が痛くなった。

9月にベルリンでの通訳の仕事、首に水ぶくれができていたのに気がついた。翌朝医者に駆け込んだら、やはり带状疱疹で、すぐに処方箋が出た。処方箋の薬は自己負担が5ユーロ(850円)と決まっている。带状疱疹になったらすぐ薬をのめば抑えられると聞いたので、少し楽観する。それが大間違いだと気づくのは後のことである。

その日は仕事もあり拘束時間は長かったが、なるべく何もしないで体力を温存した。夕食を終える頃から立つのも歩くのもだんだん辛くなってきた。

一行とわたしのホテルは別なので(お客は高級ホテルで、通訳は安ホテル)、土砂降りの中7分歩いてやっとホテルにたどり着いた。足がびしょびしょになったのも、体力を削がれた原因だった。7分とさくくと短い、実際は長い。

翌日なんとか一行を空港に送って仕事は完了したが、翌週も通訳の仕事が2つ入っていた。フリーランスの悲しいところで、通訳準備がかなり必要なだけに代わりの人を見つけるのが難しいから、絶対ドタキャンできない。

やっと通訳仕事が終わって、ほっとして寝込んだが、数日後に原因不明の激しい嘔吐と下痢となった。带状疱疹も痛く、かかりつけの家庭医でさらに強い薬を処方してもらった。けれど体調は戻らず、かつ1週間便秘となりまた家庭医に行くと、総合病院に行くようすすめられた。タクシーを呼んでもらい、病院に向かった。病人ということでタクシー代の自己負担は5ユーロのみ。残りは健康保険でまかなわれる。

超音波検査やレントゲン、血液検査をしたところ「即入院」と言われた。まさか入院すると思っていなかったの、着の身着のままだった。たまたま履いていた靴が、100歳で亡くなった祖母が履いていたもので、脱ぎやすく履きやすい布の靴だった。ふだん履かないのに、その日たまたま履いていて入院生活に最適だった。着替えを明に持って来てもらった。

入院して数日後、肺炎であることがわかった。解熱効果がある痛み止めを1日4回飲んでいのに、ある日熱が出て39.3度となった。ドイツでは37度は普通で、38度にならないと熱があることにならず、解熱剤は39度を越えたら飲む。

私は入院してからずっと37度台で「私の平熱は36度なのでこの熱は高くてちょっとしんどいんです」と訴えても誰も相手にしてくれなかったが、39度を越えたらさすがに看護師が優しくなった。酸素飽和度が89%となり、息が苦しく、酸素が出てくるマスクをした。初めての体験だった。

結局2週間の入院となった。4年前1型糖尿病発症の際に入院した時、最後の方は元気になって庭に散歩に行ったが、今回はそんな余裕はまったくない。

夜、暗がりの中看護師を呼ぶと痛み止めの点滴をしてくれる。多量の抗生物質や痛み止めを体内に入れていた。こうして内側から体が壊れていくのだと思った。生き物本来の自己治癒能力はどこかにいってしまう。

最悪だったのは病院の食事。朝と夜はパンとチーズ、ハム、ジャムで、果物や野菜は3日に1度しかつかない。昼は肉や芋、野菜だがすべて冷凍食品で、味が強烈に濃い。土曜日の昼は一品料理と決まっているらしく、缶詰を開けただけのようなスープや、ミートソースのパスタで、不健康になるのを目標にしているかのようだった。ドイツ人はこんなの食べて平気なのか。病院にお金がないとよくきくが、人手不足だけでなく、食事も切り詰めているらしい。それにしてもひどすぎる。

このときばかりは日本食が恋しくなった。幸い日本人の友人がおにぎりやスープを持ってきてくれ、それがなければ体調不良はもっと長引いていただろう。

退院の2日後に、母が日本から来てくれたので、私は寝てばかりいることができた。10月27日の明の18歳の

誕生日も、母が料理を全部用意したから、友達を呼んで誕生日会を開くことができた。

ちなみに日本では薬は1週間分とか1ヶ月分とか決まっているので、小分けにして薬局で渡されるときいた。だから時間がかかる、と。ドイツでは一箱、ぼんと渡されるので早い。

今回何度も医者に行ったが、処方箋が必要な薬は20粒入りでも200粒入りでも1箱一律5ユーロ。医者がどのくらい患者が必要か判断して決める。もちろん余ることもある。一時期、带状疱疹の痛み止めを3種類飲んでいましたが、強いものからだんだん減らし、今は一箱だけ。半箱以上余った薬もあるが、またいつか必要な時がくるかもしれないし、ウクライナに寄付してもいい。

退院して1ヶ月後に生まれて初めて胃カメラと大腸内視鏡検査をした。何もなく、健康だと言われた。血液検査で肝臓の数値が高いとわかり、超音波検査をしたが何も見つからなかった。薬のせいかもしれない。

ちなみに診察や検査はすべて無料である。入院は治療や食事、宿泊、薬などすべて込みで1日10ユーロ(1700円)なので、私は14日間で約2万4000円を払った。

いまだ带状疱疹はときどき痛むが、よく眠れるし、よく食べられるようになった。どうも今飲んでる痛み止めは食欲増進の副作用があるらしい。病気で5キロやせたが、早くも3キロ戻った。太らないよう気をつけなければ。

ごみかんドイツ特派員 田口理穂